



バンコク日本博を見学して

北陸銀行 国際部
バンコク駐在員事務所
所長 湧川 裕明

1. はじめに

9月2日から4日までの3日間に渡り、『バンコク日本博』がバンコク市内の「サイアムパラゴン」にて開催されました。リアル開催は2019年以来3年振りです。筆者は本年7月の赴任（人生初の来タイ）であり、これまでイメージでしかなかったタイの人たちの日本への関心をこの目で見ることができました。本レポートにて紹介したいと思います。

2. バンコク日本博

バンコク日本博は、2015年からバンコク中心部にあるショッピングセンター「サイアムパラゴン」内のロイヤルパラゴンホールで年1回開催され、3日間の開催期間で延べ約10万人を動員しています。旅行／食／コンテンツ／伝統工芸／美容健康／モノ／留学／就職／パフォーマンスの分野から250団体が出展・出演するタイ最大級の日本総合展示会です。

新型コロナウイルスの影響を受け、2020年はオンライン開催、2021年は開催見送りでしたが、今年は3年振りにリアル開催となりました。また、今年は日タイ修好135周年とのことで、記念の展覧会も設営されていました。

写真上:『バンコク日本博』正面入り口

写真下:会場を待つ人々の列

(筆者撮影)



3. 会場概観

会場はテーマ毎にゾーン分けされていました。

留学・就職のゾーンでは、日本の学校や企業がブースを設置しており、日本での留学・就職に関心があるタイの方々が話を聞く光景が見られました。

旅行のゾーンでは、観光庁を始め、たくさんの地方自治体が個別にブースを設置していました。その中でも、コナンや鬼太郎のパネルを前面に出していた鳥取県のブースが特に賑わっておりました。

食のゾーンでは、和牛をその場で焼肉にしたものを一皿100バーツ(約400円)にて販売するブースに長蛇の列ができていました。タイでは肉と言えば鶏か豚がポピュラーですが、「WAGYU」はタイでも人気のブランド肉なのだと実感しました。

サブカルチャーのゾーンでは、アニメの人氣が目立ちました。「One Piece」のキャラクターの巨大フィギュアが一際目を引き、中央部に設置された各キャラクターのパネル前では多くの方が記念撮影をしていました。また会場内ではコスプレイヤーの姿をよく目にし、やはりアニメのコンテンツは訴求度が高いのだと感じました。



写真左: One Pieceキャラクターの巨大フィギュア



写真中: 観光庁ブースの日本各地の紹介パンフレット(中央上が富山県の紹介パンフレット)



写真右: 観光庁のブースを訪れるタイの方々

(筆者撮影)

4. 所感

『バンコク日本博』会場に足を運んで感じたのは、日本に興味を持ち、日本に行きたいと思っているタイの方の多さです。元々、親日国とのイメージを持っていましたが、来場者の年齢層はアニメ世代の若者から、日本旅行を希望しているリタイア層まで、実に幅広いものでした。10月からは日本への個人旅行も解禁され、1日当たりの入国者数上限も撤廃されるなど、いよいよインバウンドも本格化されます。多くのタイの方が日本へ出向き、日本を好きになってタイへ戻ってきてほしいと願っています。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行: 北陸銀行 ほくりく長城会事務局

〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F

((株)人材情報センター内)

TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565

E-mail: info@chojo-hokugin.jp